



2輪車 kaisoku君

藤浪中2年学年通信

NO.1

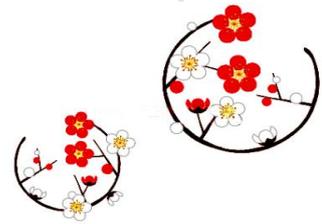
2019 4/4

進級おめでとう! 今まで以上に自分を大切に、仲間を大切に、新たな一歩を踏み出そう!!

進級おめでとうございます。2年生は、藤浪中学校の中核の学年として教科の学習を始め、学級での活動、生徒会活動、学校行事、部活動など、これまで以上に積極的に取り組んでほしいものです。また同時に、1年生に対してはよき手本となるように、中身のある先輩としての自覚をもって活動していきましょう。



昨年度の学年目標「和」は文字通り「和をもって貴し」とする「仲間」づくりを大切にしてきました。今年もその気持ちは変わりません。さらに友達の「輪」を広げ自他ともに大切にできる素晴らしい学年を目指していきましょう。



学年目標

新年度4月初めの予定

5日(金)の時間割

- 1 学年集会(各担任紹介等)
- 2 学力テスト(社会)
- 3 学活(学級組織決め)

<宿題> 教科書に名前を書いてくる

<回収物> 生徒個票・健康管理カード・スポーツ振興センター同意書
家庭訪問のお知らせ・・・15日までに回収

<持ち物> ・筆記用具 ・団体自転車保険(希望者)
・読書用の本 ・ゆうゆう申し込み(希望者)
・小中学生総合保障制度(希望者)

<連絡> 8:25チャイム鳴り始めて出欠確認。遅れないように。朝読書開始。

8日(月)	①学活	②学テ国	③学テ英	④学活	給食	⑤防災訓練
9日(火)	①学テ数	②学テ理	③学活	④学活	給食	⑤生徒総会⑥学活
10日(水)	①授業	②身体測定	③身体測定	④授業	給食	⑤授業 ⑥授業
11日(木)	①授業	②授業	③授業	④授業	給食	⑤授業 ⑥授業

「令和元年」= 和み生きる チームワークある藤浪中2年生

「初春の今月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」
時あたかも新春の好き月、空気が美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている。

出典『万葉集』巻五、梅花の歌三十二首(現代語訳/中西進著『万葉集』から)

古代の日本人は桜よりも梅が好きだったようだ。それは、万葉集には梅を歌ったものが120首に対し桜は40首だということからもうかがえる。

桜が流行りだしたのは平安時代に入ってからで、貴族たちが花見をしたところから広がっていったという。また現在の宴会の元になったのは、秀吉が700本の桜を醍醐山に植え、1,300人もの客を招待して「醍醐の花見」を開いたとされている。秀吉は日本全国から献上された銘酒・銘菓などを振舞い、参加した女性全員に2回の衣装替えを命じるなど趣向を凝らしたとか。この豪華絢爛なお花見が、桜を見ながら宴会を楽しむというスタイルへと変化していったと思われる。

さて、梅は春の訪れを告げる花であり、また香を愛した日本人は、その芳しい匂いからも梅は特別の花であつたに違いない。さらに、その梅に鶯が留まる様子を美とする日本人は何と情緒ある民族であろうか。「東風ふかば 匂ひおこせよ 梅の花 主なしとて 春を忘れるな」これも梅を詠んだ歌で有名だが、菅原道真公(菅公)が太宰府に左遷される時に京の都で詠んだ歌だ。「春の東風(こち)が吹くようになったら花を咲かせて香りを届けてくれ、梅の花よ、私がいなくても春を忘れないでくれ。」この後、京から太宰府まで梅が飛んで太宰府に根付き花を咲かせたというのがいわゆる飛梅伝説だ。このように、梅や桜を大事にするのは、日本人の四季を愛する心と、とりわけ「春」に対しての希望や喜びを大切にしている心の現れだと思う。